

今後の医療・ケアと本人にとって大切なことに関する話し合いの手引き

話し合いの流れ

話し方の例

1. 話し合いを始める

- 目的を伝える
- 将来の意思決定のための準備
- 許可を求める

「あなたの現在のお体の状態と今後考えられることをお話しし、あなたにとってどのようなことが大切か、一緒に話し合いたいのですがよろしいでしょうか？」

2. 本人の病気の認識と見通しの共有に関する意向を確認する

「これからの医療・ケアを考えるにあたってまずお聞きしておきたいと思うのですが、ご自分の病気についてどのように捉えていらっしゃるでしょうか？」

「今後、病気がどうなっていくかについて、どの程度お知りになりたいですか？」

3. 今後の見通しを共有する

- 「…だとよいのですが、…を心配しています」「…を願っていますが、…を心配しています」などの表現を使う
- 間を置きながら話し、感情を探る

「あなたの病状について、私が理解している範囲でお伝えしたいと思います…」

不確実性：「あなたの病気が今後どのように進行するか予測する事は難しいと思います。できるだけ長く、病気が進行せずに元気で過ごしていただきたいと思っています。同時に、病状が急に悪くなる可能性もあり、そのことを（とても）心配しています。そのもしもの時に備えておくことが大事だと思うのです。」

または、

時間的予後：「**そうでないと良いのですが**、残された時間が、_____（例：日単位～週単位、週単位～月単位、月単位～年単位の期間で示す）くらいになってきている可能性があることを**心配しています**。」

または、

機能的予後：「**大変申し上げにくいのですが**、あなたが感じているより病状は差し迫っているのではないかと思います。そして、今後、もう少し難しい状況になる可能性があることを**心配しています**。」

4. 大切な事について聴く

- 目標や希望
- 恐れや不安
- 支えとなるもの
- 欠かせない能力
- 延命治療の範囲（トレード・オフ）
- 家族との共有

「万が一病状が更に進んだ場合のことを考えたいと思います。病状が進んだ場合、どんなことが一番大切ですか？」

「今後の病状に関して、一番**不安**に思っていることは何ですか？どんなことが**心配**ですか？」

「これから病状と付き合っていく上で、どのようなことがあなたの**支え**になると思われますか？」

「これができなくなったら**自分らしく生きていくと感じられない**、と思うのはどんなことですか？」

（例：口から食べられること、身の周りのことが自分でできること、家族とコミュニケーションが取れること、など）

「病状が更に進んだ場合、余命を伸ばすためなら**どの程度の治療であれば**、たとえつらくてもやっていきたいと思いませんか？」

「ご**家族**は、あなたのご希望や大切にしたいことについてどのくらいご存じですか？」

5. 話し合いを締めくくる

- 要約する
- 推奨事項を説明する
- 本人に確認する
- 本人に協力することを伝える

「あなたにとって_____がとても大切だとおっしゃいましたね。それを考慮に入ると、現在の病状では__をお勧めします。」

「こうすれば、あなたが大切にしたい事を今後の医療やケアの方針に反映できると思います。」

「この方針をどう思われますか？」

「あなたの力になれるように、私も全力でお手伝いいたします。」

6. 話し合いの内容を記録する

7. 主治医や他の専門職に伝える

1